

平和とよりよき生活のために 広島の せいきょう

第26号 2009年3月30日
広島県生活協同組合連合会発行
〒730-0802
広島市中区本川町二丁目6-11
第7ウエノヤビル5F
TEL 082-532-1300
FAX 082-232-8100
E-mail:kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL:<http://kenren.jccu.coop/hiroshima/>

2009年 新春・平和のつどいを開催しました 1/8(木)

挨拶する富田会長理事



2009年1月8日(木)300名近い参加者で会場がいっぱいのなか、「2009年新春・平和のつどい」を開催いたしました。

はじめに、主催者を代表して富田会長理事は、生協は平和とよりよき生活のために、長い間、核兵器廃絶の活動を続けており、来年のNPT再検討会議に向けて重要な2009年の新春に、例年の学習交流会を拡大して平和のつどいとして開催し、多くのみなさんの参加をいただいたことに感謝を申し上げました。

続いて広島県被団協理事長の坪井直さんと東京都生協連平和活動担当者連絡会の池田京子さんにメッセージをいただきました。

坪井さんからは、自身の被爆体験を語られ、被爆者は高齢化しているが引き続き頑張っており、生協とともに活動を進めたいと力強いメッセージをいただきました。池田さんは、東京都生協連で取り組まれているCANT(都市を核攻撃目標にするなプロジェクト)署名など平和の活動について報告いただきました。

続いて全国の生協で取り組まれたCANT署名の取り組みを写真で紹介し、秋葉忠利広島市長の講演に移りました。

秋葉市長は、今は「パラダイム転換」のときであり、21世紀は、市民の力で問題を解決できる時代であると講演されました。

「報復」ではなく「和解」へ、「国家」から「都市」へ、「専門家任せ」から「市民主体」へ、「イデオロギー主導」から「人間中心」へとパラダイムが転換しており、市民みんなの力で核兵器廃絶は可能であること、その市民の願いを受けて平和市長会議が市民の声を代弁して活動していくと述べられました。

会場いっぱいの参加者は、市長の熱いメッセージに自分に何ができるか考える場となりました。今後各生協で、各地域で多様な活動が展開されるきっかけになることでしょう。



講演中の秋葉広島市長

みなさんの
み生協ひろしま虹のコーラスの
平和の歌を歌う会場の参加者



参加者:287名
【組合員・役職員272名(県外生協26・県内246)、他団体15名】

《プログラム》

- (1) 富田会長理事挨拶
- (2) メッセージ 坪井直広島県被団協理事長
池田京子 東京都生協連平和活動担当者連絡会委員
- (3) 活動報告 伊藤信子県連組織委員
- (4) 講 演 講師／秋葉忠利 広島市長
テーマ『核兵器のない平和な世界をめざして
～21世紀は、市民の力で問題を解決できる時代～』
- (5) 平和の歌合唱 虹のコーラスのみなさん



福祉事業推進協議会主催 第3回生協福祉学習交流会を開催しました 3/14(土)

第1部の講演会では、上野行良さん（福岡県立大学人間社会学部教授）を講師にお迎えし、ご講演いただきました。講演では、自分のストレスに気付き、そのストレスを解消する、ストレスのコントロールの方法、さらに介護の現場で働くみなさんが抱えている悩みに応えて、自分を許してあげること、相手に気持ちを伝えることを具体的に説明されました。

講師は身近な話をもとに具体的に説明され、パワーポイントを駆使し、身振り手振り、表情豊かな講演で、ストレスの話にもかかわらず会場からは何度も笑いが起きました。講演のアンケートでは「非常に良い」が圧倒的で、「自分のストレスに気付かされた」「現在ぶつかっている問題に当てはまることばかりで、楽しくまるで自分の相談事を聞いていただいたよう」「90分笑えて楽しかった」「笑いの中にいつのまにか心が軽くなつた自分がいた」「また先生の講演を聞きたいです」と大好評、まさにストレスも解消された講演でした。

第2部では、ヘルパー、サービス提供責任者、そしてケアマネージャーの3つの職種に分かれ、現在抱えている仕事上の悩みを出し合いました。同じような問題を抱えていることに安心したという意見が多く出され、また違う意見が参考になったという意見もありました。ストレス解消法についても積極的に出され、活発な意見交換で、多くの方が満足された交流会になりました。

最後に福祉事業推進協議会の代表の広島医療生協坂本専務理事は、「悩みのなかで、介護の制度改定によるものも多く、利用者のためにも、今後よりよい制度とするための活動も取り組まなければならない」と述べました。

3回目となる福祉学習交流会ですが、これまでで一番多数の参加で開催することができました。今回は日ごろ抱えているストレスを解消することに少しは役立ったのではないかと思います。福祉事業推進協議会では、生協の福祉のあり方を現場から考えるために、今後も引き続き福祉学習交流会に取り組みます。

日 時 : 2009年3月14日(土) 13:30 ~ 16:30

会 場 : 広島市まちづくり市民交流プラザ

参 加 者 : 91名

(1) 講演: 講師 福岡県立大学人間社会学部教授 上野 行良さん

テーマ「ストレスを和らげる人間関係」

(2) 分散交流会: 11の職種別グループで意見交流



身振り手振りを付けて
お話をされる講師



講師の話で大爆笑の参加者



お互いの悩みを出し合った分散交流会

NETWORK

HJC(広島県協同組合連絡協議会) 視察研修報告 2/16(月)・17(火)



(株)内子フレッシュパークから
の社長からお話をうかがいました

広島県協同組合連絡協議会では今年度「地産地消」「食農教育」の先進事例を学ぶため、愛媛県への視察研修を実施しました。初日は内子フレッシュパークで、市民も出資した第3セクターの取り組みについてうかがいました。「作るだけの農業」から「作り・売り・サービスする農業」を基本に出荷者平均販売額110万円を超え、農家の経営を支えています。年間利用者が70万人を超える、地域活性化にも貢献し、消費者との交流や食と農の体験活動や品質チェック体制を整えるなど、安全・安心・新鮮・安価・手作り・品ぞろえなど消費者の要求に対応できる施設へと発展していると報告されました。2日目午前中はJAおちいまばり直売所「さいさいきて屋」にうかがいました。直売所としては全国で一番広い店舗面積を持ち、野菜はもちろん、今治の漁協とも連携して魚も扱う店舗で敷地内には地消レストラン、パン工房、新技術・新品種実証実験農園、体験型市民農園、研修施設まであり、まさに地産地消型地域農業振興拠点です。これらの施設ができたのも店長が農家の農協離れの実態に危機感を持ち、兼業・女性・高齢者対策として直売所を提案して実現したものです。他の施設も職員からの提案でつくられています。最後は今治市役所を訪問しました。82年学校給食センター反対の運動をきっかけに83年に学校給食調理場の自校式化、学校給食への有機農産物の導入、地元食材の優先使用、88年には「食糧の安全性と安定供給体制を確立する都市宣言」を受けて、有機農業の振興、地産地消の推進、食育の推進に取り組んでこられた内容をお聞きしました。



JAおちいまばり直売所
「さいさいきて屋」

【お知らせ】 2009年7月3日(金) 13:00~16:00

HJC主催「広島県協同組合大会」開催 記念講演:内橋克人さん

会員生協レポーターからの報告



● グリーンコープひろしま ●

「グリーンコープフェスタin福山」&子育て講演会を開催しました。



2008年10月12日(日)ふくやま産業交流館(ビッグローズ)で開催した「グリーンコープフェスタIN福山」は2,000人を越えるご来場があり、大変活気に満ちたイベントとなりました。

ご来場の方は出展したブースのほとんどに立ち寄られ、あるところでは列の最後尾をご案内するほどの長蛇の列でした。このイベントを機に多くの方にグリーンコープをより知っていただくきっかけになり、ご家族連れて来場された方など楽しんでいただけたものと思っています。

また当日、同時開催で子育て講演会として、竹下和男さんをお招きし、「くらしの時間が家族を育む」を開催しました。「弁当の日」は小学校5・6年生、中学校の子どもが、メニューを考え、買出しし、早起きして弁当作りまでを一人でやりきる事で、お母さんへの感謝の気持ち、一人でやり遂げた自信、家族との会話のきっかけなど、何気ないけど、実は大切な「くらしの時間」を作り出す、素晴らしい取り組みになっている様子を多くの実例とともに話して頂きました。またこの取り組みの様子をお聞きし、現在取り組んでいる「子ども料理教室」が共通した意義と目的で活動している事に自信が持てました。



広島大学消費生活協同組合

大学生協は組合員の大多数が学生であり、その2割程度が毎年この3月4月に入れ替わることになります。新入生は大学生協のメンバー候補者であり、生協の必要性を新入生とその保護者の方にお伝えすることが重要です。そのため最近は「先輩学生が後輩となる新入生をサポートする」という新学期センター制に積極的に取り組んでいます。

具体的には長年続けてきた生協組織部学生による「受験時のホテルでの相談活動」、「BEACONという情報誌の発行」、「新入生歓迎イベントの開催」等に加え、「一人暮らしのためのお部屋紹介」から「生協共済加入」、そして「家具家電製品・大学推奨パソコン・パソコン講座」といった生活と学びを支える商品サービス、そして食生活を支える「ミールカード」(生協食堂の年間利用定期券、一定額を前払いすることで1年間、1日当たり80円または1,000円まで食堂で食事をすることができる仕組み)、これらを先輩学生センターが大学キャンパス内の特設会場や電話で一生懸命提案説明し、質問に答えています。またこの活動は新入生のお世話をする学生センター自身にとっても貴重な就業経験にもなり、自らを成長させる機会となっています。

「事業」を通して先輩から後輩へ生協の良さが伝わることで組合員の輪が広がる「運動」につながる、このセンター活動こそ大学生協そのものを感じています。



お知らせ

日本ユニセフ協会広島県支部 4月1日(水)新たな事務所でスタート

広島県生協連の事務所から新たな事務所(同じ階の別の部屋)に引っ越しされました。住所は同じですが、電話番号は次のように変更になりますので、ご注意ください。

TEL/FAX 082-231-8855(月・火・木・金 11:00~15:00)